

研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 2 5	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Impact of alcohol abuse in the etiology and severity of community-acquired pneumonia. 市中肺炎の発症および重症度に対するアルコール乱用の影響	
執筆者	
de Roux A, Cavalcanti M, Marcos MA, Garcia E, Ewig S, Mensa J, Torres A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Chest. 2006 May;129(5):1219-25.	
キーワード	
市中肺炎、アルコール依存、肺炎球菌、抗生物質耐性	
要 旨	
<p>アルコール摂取は全身および呼吸器系の免疫機能に影響を与えることが知られており、呼吸器感染を引き起こしやすくする。そこで、アルコール乱用のある患者とない患者で、市中肺炎の原因、抗生物質に対する肺炎連鎖球菌の耐性、重症度、予後を比較した。</p> <p>市中肺炎患者全体を、アルコール依存 (128 例)・過去のアルコール依存の既往 (54 例)・健常 (1165 例) に分けて検討した。</p> <p>肺炎連鎖球菌はアルコール乱用患者により頻繁にみられた。抗生物質に対する耐性、浸潤性の肺炎球菌および他の原因菌による肺炎の発症については差はみられなかった。アメリカ胸腔学会による市中肺炎重症度判定で A にあたる患者の頻度に差がみられたものの、死亡率には差はみられなかった。多変量解析では、肺炎球菌に起因する市中肺炎とアルコール依存との間に有意な関連がみられた (オッズ比: アルコール依存で 1. 6、過去のアルコール依存で 2. 1)。</p> <p>結論として、肺炎球菌感染とアルコール依存との間に有意な関連があり、また、現在のアルコール依存と重症市中肺炎との間にも有意な関連があった。死亡率、肺炎連鎖球菌の抗生物質耐性、その他の起炎菌との間には有意な関連は認められなかった。</p>	